二宮 清治

Seiji Ninomiya

総務省 大臣官房会計課長

「変化」があるから、楽しいんだ!!

これまでのキャリアをふりかえって

旧郵政省に入省し、早いもので29年。日々変化の激しいICT分野で、政策を企画・立案していくワクワク感を、今も変らず持ち続けています。変化の激しい世界で、どの部署でも政策の効果を短期間でVividに感じてきました。

現在、課長になって思うのは、「過去の経験」よりも、「今を正しく捉える目」が大切であるということです。

１年前の正解は、必ずしも今の正解ではなく、若い人の感性と問題意識によって捉える「今の世界」を掘り下げていくことが、かつてこうだったという経験よりも遥かに重要となるのです。

私自身、若手職員のものごとを捉える目に日々刺激をもらっています。

ICTは、健康・医療、観光、金融、農林水産、ものづくり、防災・減災などのあらゆる分野にも横串で関連します。

生産性革命、地域振興、国民生活向上の観点からも大変重要です。

若い人たちの活躍の機会が与えられ、その機会を通じて、若い人たち自らが、将来を築いていくことができる。

また、そのことが幅広い分野への貢献に繋がる。

そんなフィールドが総務省には広がっています。

■2017～現職　大臣官房会計課長

予算編成・執行・決算事務から、国有財産管理、福利厚生、庁舎管理まで幅広く担当する課員約100名の大所帯です。全省を見渡す官房の立場で、全体として総務省のパフォーマンスを如何に上げていくことができるかを考えております。働きやすい職場環境の整備にも努めているところです。

■2013～2017　内閣官房副長官補室参事官、IT総合戦略室次長

各省課長クラスが官邸の膝元に集まって、省庁を超えた調整を行う副長官補室の４年間では、日本年金機構の個人情報流出事案、熊本地震の災害対応など、省庁の垣根を越えて迅速かつ的確な対応を進める官邸主導の政策に携わりました。また、同時期、IT総合戦略室次長として、ICT利活用の推進のための戦略策定にも携わりました。

■2006～2013　総合通信基盤局電気通信業部消費者行政課長、料金サービス課長

消費者行政課では、インターネットの違法・有害情報対策を進めました。携帯フィルタリングの装着や児童ポルノ対策等、プライバシー、青少年保護などと表現の自由といった対立する考え方にどのように折り合いをつけるかに苦心しました。子どもの成長に思いを致し真剣に向き合う多くの方々に巡り合いました。

■2004～2006　総合通信基盤局国際部国際経済室長

室長として経済連携協定でタイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン等アジア各国と交渉。あわせて、APEC電気通信・情報作業部会の副議長として、経済協力の枠組みでも多国間調整に当たりました。この際、米国留学時代の知人、WTO交渉等での各国代表等に大いに協力を得られたこともうれしい経験です。

■2002～2004　米国勤務

情報通信研究機構（NICT）のワシントン事務所長として、２度目の米国。通信政策事情を研究する中で、きめの細やかな民主党と、ハンズオフの共和党の通信政策の背景にある哲学の違いなど、多くを学びました。存分に知見を広めることができたばかりでなく、娘の現地小学校の友人とは今だに交流がある等、我が家の国際化にも大きく貢献。

■1997～2002　総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課

事業政策課補佐（NTT担当）として、NTT再編成の実施に携わるとともに、総括補佐として、各種業態での新規参入促進策等の企画・立案に携わりました。

■1992～1997　大臣官房国際部国際経済室

北米経済係長として通信分野の経済交渉（通信機器の調達、移動電話サービス等）を担当。貿易収支不均衡を背景に強硬姿勢の米国政府を相手に苦戦しましたが、国益追求の容易ならざる取組みに参画できました。その後、課長補佐としてWTO交渉を担当。世界的な通信規制の多国間の枠組みづくりに関与し、土壇場で交渉決裂、期限延長、その後合意に至った国際交渉のダイナミズムを間近で体験。

■1991～1992　米国留学

米国イェール大学で国際開発経済学を学び、修士号を取得。途上国の中央銀行等の志高き面々の中で充実した時間を過ごしました。また、実際に米国で生活しなければ理解できない米国社会の実態（豊かさと歪み）、文化の多様性、ものの考え方などを肌で感じることができ、その後の職務に大変役立ったことは言うまでもありません。

■1988～1991　簡易保険局資金運用第二課・企画課

入省後の研修を経て郵政事業部門に配属され、簡保の資金運用を担当。世界でも有数の機関投資家の一つである、簡保資金による外国債の運用実務を経験。その後、資金運用制度改善を担当。より有利な資金運用を確保するため、運用範囲の拡大について大蔵省理財局と折衝。